

# 校友会会報



## 酪農学園大学同窓会校友会

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町 582 番地 同窓生会館内

TEL (011) 386-1196 FAX (011) 386-5987

E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp HP <https://kouyukai.rakuno.org>

発行 酪農学園大学同窓会校友会

印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

### 17年ぶりの快挙! YOSAKOIサークル“祭”(らくの〜ず)がファイナル優秀賞を獲得

酪農学園YOSAKOIサークル“祭”(通称:らくの〜ず)が、6月11日に開催されたYOSAKOIファイナルステージで優秀賞を獲得し、17年ぶりの快挙となりました



ファイナルステージでの熱演



## Contents

- 2 北海道酪農の創生と酪農学園創立90周年
- 3 地域に密着した教育研究を目指して
- 4 北海道で食品を研究・開発するなら酪農学園大学!
- 5 環境共生学類は進化を続けます
- 6 変化する状況に即した獣医学教育を目指して
- 7 動物看護師の国家資格化について
- 8 イベント紹介
- 9 4年振り「周年記念同期会」開催報告
- 10 獣医周年記念同期会開催報告  
周年記念同期会・ホームカミングデー開催のお知らせ
- 11 酪農学園大学の更なる発展に向けて、地域にねざした選ばれる大学へ(新学長あいさつ)
- 12 大学同窓会校友会理事・代議員会開催報告  
物故者(2022年4月~2023年3月)  
会計報告(2022年度決算・2023年度予算)



## 北海道酪農の創生と 酪農学園創立90周年

酪農学園大学同窓会校友会 会長 **野 英二**

### はじめに

会員の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃から酪農学園大学同窓会校友会に対し、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、2023年5月から季節性インフルエンザと同等の「5類感染症」になり、行動規制も緩和され、通常の生活に戻りつつあります。しかし、夏頃から感染拡大傾向にあり、また、季節性インフルエンザは早期からの感染傾向にあります。皆様におかれましては、油断なくお過ごしただきたいと思っております。

### 校友会活動

2023年5月19日に理事・代議員会が開催されました。2023年度の主な事業計画は、在校生への支援（白樺祭への資金援助、食生活改善運動など）、卒業式関係（記念品贈呈、パーティーの助成）、合同周年記念同期会の開催、同窓会支部活動助成などです。

2023年度のホームカミングデーは9月23日に開催されました。2020、2021年度はコロナ禍のため中止となりましたが、それまでは校友会が運営してきました。ホームカミングデーの趣旨から昨年は酪農学園同窓会、そして今年度は酪農学園（法人）が主催し酪農学園創立90周年のため「創立90周年 記念礼拝・記念講演会」としての開催でした。

同日に開催された周年記念同期会は、コロナ禍である2020～2022年は延期としたため4年分合わせての合同開催となりました。参加者は、卒業50周年を筆頭に卒業生66名、貴農同志会（退職教職員）8名、現職教員4名、事務局4名でした。なお、合同周年記念同期会の案内は、獣医以外の卒業生を対象に案内させていただいております。

次回からはホームカミングデーと周年記念同期会（懇親会）への積極的な参加を期待しております。

### 甲子園球児から北海道酪農の系譜を思う

昨年の甲子園（高校野球）優勝校は、107年ぶり2回目の優勝として話題になりました。決勝翌日のテレビ番組で107年前の優勝メンバーにジョン・ダンという外国人の存在が耳に入ってきました。聞き覚えのある名前でしたので確認をいたしました。彼は、外国人として初めての高校球児であり、北海道酪農の父と呼ばれ

たエドウィン・ダン（以下ダン）の三男でした。ダンは、1873年に明治政府のお雇い外国人として開拓使に雇用され、真駒内牧牛場の設立を指導するなど、北海道における畜産・酪農の発展に多大な貢献をした人物です。

黒澤西蔵が牛飼いを始めるきっかけとなった宇都宮仙太郎との出会いはご承知かと思っております。宇都宮は牛飼いを目的として、町村金弥（札幌農学校2期生、町村農場創業者町村敬貴の父）が場長の真駒内牧牛場の牧夫として働きました。その後、宇都宮は搾乳業（酪農）を始め、その農場に黒澤西蔵がやってきたのです。この出会いが、北海道製酪販売組合連合会（雪印乳業の前身）と酪農義塾創立の原点となりました。酪農学園の現在地への移転には、町村敬貴の多大な協力があったようです。以上の登場人物は、北海道酪農史上、最も重要な人々です。

2023年度の甲子園の小さな話題から、酪農学園創立90周年を迎えるにあたり、北海道酪農の基礎の系譜を改めて思い起こしました。今日、酪農業界は厳しい状況下にあります。先人の思いを大切にしたいものです。

### 酪農学園同窓会への統合について

2013年に酪農学園同窓会理事・代議員会において、各单位同窓会組織と財務が完全統合することが決議されていましたが、単位同窓会の同意が得られていない状況にありました。そこで、組織財務検討委員会を組織し、再検討をいたしました。その結果、酪農学園同窓会へ「現状通りの形態、すなわち各单位同窓会は酪農学園同窓会と連携していく」との提案に対し校友会としては、「校友会は独自の財務を維持し、酪農学園同窓会への財務の完全統合は行わない」としました。ご理解のほどよろしく願いいたします。

### お願い

2021年度入学生から定員割れの状態にある。22、23年度は定員（700名）の一割減であります。学生数の減少は、学校運営において深刻なのは勿論のこと、同窓会費収入の減少から会の維持と活動にも影響されます。収支のバランスを適正化するための検討が必須になります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。また、皆様の酪農学園に関する啓蒙と広報活動から、志願者が増加すれば幸いです。

循環農学類の近況

地域に密着した教育研究を目指して

循環農学類長 ひなた たかひさ  
日向 貴久



同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのことと存じます。

さて、循環農学類では、2023年3月に236名の卒業生が社会へと巣立ったのも束の間、4月には208名の新生が本学の門戸を叩きました。少子化やコロナの影響も相俟って入学者は減少しましたが、実験実習もほぼ従来と近い形で実施しており、実学教育も元に戻りつつあります。8月には、1年生の必修科目「健土健民実習」の課外授業として、食と健康学類と合同で収穫体験会を開催し、学生が収穫を体験するとともに、本学で作られた小麦粉や野菜、ベーコン、チーズ等を持ち寄り収穫物の試食を楽しむことができました。

収穫体験会の様子



本学類は、地域に密着した教育研究を目指すべく外部資金の中でも民間の受託研究が多い特徴があります。企業との連携の成果が学類内で着々と実を結んでおります。5月には北海道コカ・コーラボトリング株式会社の茶かすをエコフィードとして肉牛に与え、生産された牛肉を初出荷しました。イオン江別店で廃棄される食品の飼料化も始まっております。

本学の建学理念である「循環農法」を目指すため、畜産での課題の一つにタンパク源の確保があります。中小家畜飼養学講座の山田未知教授の10年に渡る交流がきっかけとなり、5月には江別市内の食品製造会社である菊田食品と包括連携協定を結びました。豆腐の製造時に出る廃棄残渣を豚に与え、発生したふん尿で

堆肥を作り大豆圃場に散布することで、タンパク質の循環を目指す取組みとして期待されております。くわえて、FEDRECの肉牛農場では、昨年に続き石狩管内肉用牛共進会において経産の部で最高位賞を受賞しました。これらの取組みは、実学教育の生んだ具体的な成果として注目を集めるところでです。

学類の魅力を発信し、学生を呼び込むための広報活動にも力を入れつつあります。協同組合学講座の糸山准教授は、研究室のインスタグラム (<https://www.instagram.com/rguagri>) を設置しています。大学やゼミの内外での活動を学生と一緒に情報発信をしており、500名以上のフォロワーを集めております。興味のある方はぜひご覧になってください。

また、いくつかの研究室では、同窓生の集まりも再開し、家畜管理・行動学講座(森田教授)は、11月にご自身の卒業生を含む旧酪農学科時代からの卒業生の会「酪進会」(会員数800名)の総会を開催しました。当日は約120名の卒業生が参加し、旧交を温めたとのことでした。

最後に、教員の動静について、今後5年間では、本学類教員47名のうち約3割を占める14名の定年退職が見込まれています。今後の教育研究の充実を図るべく、教員一人ひとりが自らの分野で輝く星になる努力が重要と考えるところです。引き続きのご理解とご協力をいただくとともに、後輩である学生たちへの温かい励ましとご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

石狩管内肉用牛共進会経産の部最高位「はるな1」



## 食と健康学類の近況

## 北海道で食品を研究・開発するなら酪農学園大学！

食と健康学類長 **あべ** **つとむ**  
**阿部** **茂**

皆様こんにちは。2023年5月より食と健康学類の学類長を務めております阿部と申します。前職の道総研食品加工研究センター（とわの森高校の上にある）から酪農学園大学に移籍しまして、9年目となりました。はや9年!?!とは思いますが、こと「北海道の食」に関しては、ずいぶんドラスティックに変化していると感じております。特に顕著なのが温暖化の影響です。北海道の米は日本一美味しくなりましたが、その北限もどんどん北上して今では宗谷管内でも栽培されていますし、最近では春先になるとホームセンターでさつまいもや落花生の苗も販売されるようになりました。また、ワイナリーの数も55カ所（2023年）と10年前の約3倍に増加しており、今や北海道はワイン用ブドウの主産地となっています。一方、海に目を向けると昔はサケやサンマなど寒方系の魚がたくさん獲れ、北海道の美味しい秋の代名詞でしたが最近ではめっきりと漁獲量が減少し、代わりに南方系のブリやカツオ、さらにはシイラ（熱帯の魚!!）までが漁獲されるようになり、スーパーマーケットにブリの切り身がたくさん並ぶようになったのは記憶に新しいことと思います。

北竜町ひまわりフェスティバルにて（共同研究）



そんな体感できるほどの急激な温暖化なのですが、北海道の食品加工業界にも多大な影響を与えており、私達研究者にも多くの研究開発テーマが寄せられるようになりました。新たな食材がたくさん生産されるようになると鮮度保

持技術、加工技術などの開発、更にはそれに伴う食品加工機器開発や周辺技術の開発などが必要となります。もともとの技術をそのまま使えばいいじゃないか、という訳にもいかず北海道の場合は本州と比較すると大規模になることが多く、加えて品質や性質が大きく異なるので、北海道仕様の技術を確立しなくてはならないのです。例えばさつまいもなどは本州産と比較して少し水っぽいので、その特性に合わせたスイーツや料理などを開発する必要があります。また、ブリは鮮度が落ちると酸っぱくなるので鮮度保持技術の開発が欠かせないですし、最近ではフクラギ、イナダという小型のブリが大量に獲れるので加工による活用方法を開発することが喫緊の課題となっています。

本稿では「温暖化」をキーワードに食産業の現状について紹介しましたが、その他にもインバウンドの増加、ふるさと納税品の地域特産品開発、SDGsやフードロス低減などの取り組みなど、北海道の食産業は今後もますます重要になってきます。食と健康学類ではそのような背景を受け、北海道の食産業を支えるべく新たなスローガン「北海道で食品研究・開発するなら酪農学園大学！」を立ち上げました。北海道の食産業の現場を支えるのは酪農学園大学、というメッセージが込められています。私達は食材の鮮度保持、美味しさや生理機能性の科学的解明について精力的に取り組むとともに、北海道の特産品である乳肉製品やお菓子、調味料、お酒などの食品の研究・開発を行っています。そ

して、北海道の食産業の屋台骨を担う人材を輩出するべく教員一同頑張っております。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

3年ぶりの追いコン



環境共生学類の近況

環境共生学類は進化を続けます

環境共生学類長 よしなか あつひろ  
吉中 厚裕



同窓生の皆様におかれましては、日頃より環境共生学類の教育・研究に多大なるご理解とご支援を賜っておりますことを心より御礼申し上げます。皆様、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

中谷暢丈先生に代わりまして2023年春より学類長を務めることになりました吉中厚裕と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本学類は今も進化を続けています。2023年4月には、吉村暢彦講師（実践GIS研究室）、菅原隆介助教（データサイエンス研究室）、松林圭助教（昆虫生態学研究室）、松本圭司助教（昆虫生理生態学研究室）、そして畑中朋子助手の5名の新しい教員を迎えることができました。教育・研究のフィールド・対象がまた大きく広がりました。一方で、本学で長年活躍されてきました金子正美教授（環境GIS研究室）、小林敬教授（哲学・人文科学研究室）、牧原統教授（身体環境学研究室）、金子命助手の4名が大学を離れられることとなりました。現在は計25名の教員スタッフで教育・研究を展開しています。

金子正美先生は、酪農学園認定第1号となるベンチャー企業「株式会社インターリジョン」を5月に

学内に設立され、代表取締役CEOに就任されました。同社は、ドローンや人工衛星画像を利用した解析、GIS（地理情報システム）を用いたデータの活用、空間情報システムの開発を通じて、北海道の地域づくり及び発展途上国への技術協力など社会貢献を目指されています。本学類としても積極的に連携・協力を進めていきたいと考えています。

在学生は、2023年9月1日現在、1年生が122名、2年生が126名、3年生が108名、4年生が121名の計477名です。これらの学生を誰一人おいてきぼりにすることなく、環境に関する基礎科学の学びと実践的な学びを通して、現象を客観的に解析する技術や知識を修得するとともに、問題解決に向けた総合的な判断力を培い、自然と人が調和・共生する社会の形成に貢献できる人材を養成すべく、今後とも学類教員一同日々奮闘努力してまいります。不確実で予測不能な世の中ではありますが、いやそういう世の中であるからこそ、「創造的進化」を続けていきたいと思っておりますので、より一層のご支援・ご鞭撻をいただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本全体の人口が減少を続けています。今後とも優秀で意欲のある学生を本学類に数多く迎えることができるよう、教育・研究の質を高める地道な努力を続けるとともに、本学類の特長と魅力とを様々なチャンネルを使って発信していきたいと思っています。SNSを通じて本学類の活動について随時ご紹介していますので是非ご覧ください。そして本学類の魅力を皆さまからも世界に広めていただければありがたく存じます。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈りしております。

シカ捕獲認証（DCC）に関連する野外実習の様子



▼環境共生学類の情報はこちらからもご覧いただけます。



## 獣医学類の近況

## 変化する状況に即した獣医学教育を目指して

てらおか ひろき  
 獣医学類長 寺岡 宏樹



酪農学園大学同窓生の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より獣医学類の教育、研究ならびにエクステンション活動につきまして、多大なご支援を賜り心よりお礼申し上げます。

現在、本学類最大の関心事は欧州獣医学教育認証(EAEVE)のFV(Full visitation:現地審査)対応です。これまで国内でEAEVE認証を得たのは北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程と、岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科連のわずか2つだけです。認定を目指し、数年のうちに嘱託を含めて100名を超える教員を揃える予定です。また、本学附属動物医療センターをはじめとした各施設を改修し、模擬動物を用いた実習を行うため、旧機農高校校舎を改造してスキルラボも新設しました。また、バーチャルトレーニングを含めて、伴侶動物、生産動物、食肉検査、展示動物の各実習の実施体制を整えました。様々な努力により、診療件数や病畜の解剖数も増加させました。これらの対応は私共教員からしても予想をはるかに超えております。昔の獣医学教育を受けた私などからすると、本学類で学ぶ学生のことが羨ましくなるほどです。これまでお知らせしましたEAEVE対策に際しましても、酪小獣麦の会をはじめとした動物病院、道内外の公的機関を含めて多くの同窓生の皆様のお世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

スキルラボにおける模擬牛を用いた実習



2022年度に退職された先生方をご紹介します。これまでの本学でのご貢献に心より感謝申し上げます。[退職の先生方] 上野博史先生(教授・伴侶動物外科学)、大塚浩通先生(教授・生産動物病態学)、桐澤力雄先生(教授・獣医ウイルス学)、村田 亮先生(講師・獣医細菌学)、尾針由真先生(助教・医動物学)、蘇武なつみ先生(嘱託助手・動物医療センター)、田面木晴

香先生(嘱託助手・動物医療センター)、弘川拓先生(嘱託助手・動物医療センター)

2023年度、14名の先生方をお迎えいたしました。

[着任の先生方] 大道寺智先生(准教授・獣医ウイルス学)、濱本裕仁先生(講師・伴侶動物外科学)、福田茂夫先生(講師・生産動物病態学)、赤羽根僚太先生(助教・伴侶動物内科学)、高橋直紀先生(助教・獣医解剖学)、山口智之先生(助教・獣医細菌学)、石川高明先生(嘱託教授・生産動物外科学)、有井美怜先生(嘱託助手・動物医療センター)、岩佐彩奈先生(嘱託助手・動物ハイテク診断治療センター)、大塚まりな先生(嘱託助手・動物ハイテク診断治療センター)、チェンイーイン先生(嘱託助手・動物医療センター)、西田曉子先生(嘱託助手・動物医療センター)、藤田麻由先生(嘱託助手・動物医療センター)、安原克哉先生(嘱託助手・動物医療センター)

学生の就職状況についてです。同窓生の皆様には就職活動につきましても多大なご支援をいただき感謝申し上げます。2022年度は主な就職状況として小動物臨床63名(このうち6名は動物看護師として)、産業動物臨床22名(JRA2名を含む)、公務員獣医師14名、進学4名でした。その他、農場、民間企業や本学教員としても多くの学生が就職しております。全般的な傾向としましては、ほぼ昨年度並みでした。

国家試験の受験結果についてです。「国家試験対応委員会」と「学力向上対応委員会」が中心となり、学生、教員とも懸命に努力したにもかかわらず、本学における第74回獣医師国家試験(2022年度)の合格率は80.5%でした。しかし、全国平均が81.1%という知る限り、史上最低の合格率であったことを考慮すれば、案外、本学は健闘したのではないかと考えております。この傾向が今後も続くかが問題です。獣医学科同窓会(南繁会長)にいただいております様々なご支援を学力向上につなげるべく、今年度は2つの委員会を一本化した学力向上対応委員会がさらに厳しい対策を立てております。

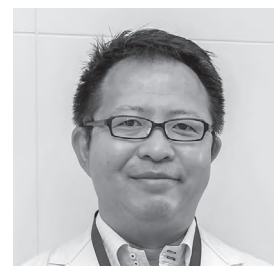
新型コロナの影響はやはり大きかったのですが、学類行事やユニット単位の催事も復活してまいりました。学生の生き生きとした姿を見ることが多くなったように思います。今後とも、引き続き、ご指導ならびにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、酪農学園大学同窓生諸氏のご健勝を、教員一同、心よりご祈念申し上げます。

獣医保健看護学類の近況

動物看護師の国家資格化について

獣医保健看護学類長 **林** はやし **英明** ひであき



同窓生の皆様におかれましては、益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より獣医保健看護学類の教育及び研究活動にご協力をいただき感謝申し上げます。大学の方では様々な規制が解除され、学生は自由に課外活動を行えるようになり、やっと大学らしい雰囲気に戻って参りました。ここ数年の間で看護学類の教員体制は大きく変化しました。2021年度には佐野先生が獣医学類へ異動されて、獣医学類から高橋先生、能田先生および林の3名が異動、川添先生が新たに赴任されました。そして、21年度末をもって菅野教授および北澤教授が退職されました。

「愛玩動物看護師法」がいよいよ2022年5月1日に施行され、昨年度の卒業生は講習会を受講した上で、国家試験を受験いたしました。結果として、受験した在学者59名に対して合格者が52名となり合格率は88.1%でした。今年度はこの結果を分析して100%の合格率を目指して次回の国家試験に向けての対策を講じているところです。卒業生のうち約50%の31名が伴侶動物の動物病院に就職しており、それ以外では製薬会社や保険会社、そして家畜人工授精師や馬関連と生産動物関係の職種にも就職しております。

学類での看護教育については、2021年度のカリキュラム変更に伴い、学群共通専門基礎科目として獣医組織学や獣医生理学総論、獣医病理学総論、公衆衛生学総論など基礎的な専門科目を獣医学類との共通科目として獣医と看護の学生が同じ講義を受講しています。また、獣医学類におけるEAVEE対応の教育システムを看護学類でも一部取り入れた教育を展開しています。例えば、2年生から3年生にかけての実習をスキルラボで実施することで、スキルを徹底的に習得した上で、3年後期からの臨床実習（クリニカルローテーション）に参加するようになっております。

スキルラボ実習



学外との関連につきまして、本学は今年開業しましたエスコンフィールドにおけるユニ・チャームDOG SUITE（愛犬と一緒に野球観戦が出来る専用エリア）およびユニ・チャームDOG PARK（球場横のドッグラン）の運営事業者として看護学類教員が主体となってかかわっております。また、北海道との連携として、動物愛護管理センター運用実証事業を大学として受けており、保護動物の受け入れや譲渡活動を通して教育・研究の場としても利用しております。

郡山尚紀教授と獣医保健学類の学生達（エスコンフィールド内ユニ・チャームDOG PARKにて）



獣医保健看護学類ではしっかりと知識と経験、スキルを身につけた愛玩動物看護師を社会に送り出すだけでなく、ゼミでの活動を通して動物と人との関係を学び、地域社会に貢献できる人材を輩出できるような教育を目指しておりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 白井一幸氏 WBCの裏話を語る

9月23日（土）のホームカミングデーに酪農学園創立90周年事業の一環として記念礼拝および記念講演会が行われました。記念礼拝では朴美愛宗教主事から、本学園の正門である「狭き門」や「希望の塔」についての教示をいただき、創立100周年を迎えられるよう祈りを捧げました。また、物故者一人ひとりの氏名を読み上げて追悼を行いました。

その後、講師に白井一幸氏を迎え、「侍JAPAN ヘッドコーチに学ぶ、強い組織の作り方」と題した記念講演会へと続き、白井氏はWBCを振り返りチームビルディングにおける目標・目的の設定や、チーム全員の役割、責任の全う、またファンとの関係等について笑いを交えて語り、さまざまな視点での講演となりました。



▲白井一幸氏（元日本ハムファイターズヘッドコーチ・解説者等）

## 食生活改善運動に協賛しています

本学をはじめ、江別市内4大学・1短大の共同企画「秋の食生活改善運動（100円朝食）」が、10月25日から10月27日（朝8：20～9：20）の3日間で750食（各250食）を提供しました。2007年からこの取り組みをはじめ、今回で通算29回目となります。学生が心身ともに健康な学生生活を送れるよう、毎日の規則正しい食生活を身につけるきっかけづくりにと、江別市内の大学・短大が共同で実施しています。特に本学は「食」を研究の基本とし、「健土健民」という本学独自の思想の啓発に努めています。朝食を抜くと疲れやすく、集中力が続かないという指摘や生活習慣病の引き金の一つになっているという指摘があることも踏まえ、一日の始まりのエネルギーをしっかりと摂取してもらい、勉学に励んでもらいたいという目的のもと、一汁三菜に健土健民牛乳（300ml）が付いた日替わりメニューが提供されました。

本学が2007年から始めたこの運動を初回からサポートしてきた食と健康学類の石井智美教授の研究室では、朝食に関するアンケートの集計やゴミの仕分け、ポスター展示で食事や牛乳普及をPRしました。



▲食と健康学類の石井智美教授 ▲1日目のメニューとゼミ生



▲朝練あとのラクロス部  
「朝からバランスの良い食事が食べられるのでありがたいです！」

## 野外礼拝堂でミニライブを開催

学生サークルのブルーグラス研究所が5月29日、構内の野外礼拝堂で「BLUEGRASS昼休みLIVE」を開きました。日頃交流のあった同サークルのOB・OGと現役学生とのコラボ企画で全8曲を演奏しました。

獣医学類3年の猪狩楓さんは、「とにかくOBの演奏は格が違います。私はブルーグラスの演奏歴2年ですし、レベルが違い過ぎて申し訳なくもありませんが、音響機材を準備していただいて本格的なライブができて楽しかったです。こんな機会は滅多にないので、思い切り先輩の胸を借りました」と話しました。



▲緑の中の野外音楽堂にて



# 酪農学園大学 周年記念同期会

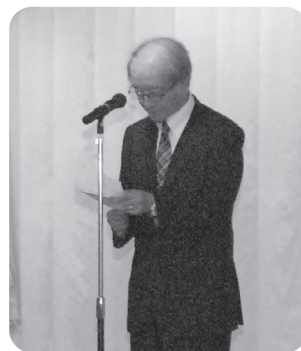
日時 2023年9月23日(土) 18時～  
場所 新さっぽろアーキシティホテル

10・20・30・40・50周年記念同期会を開催。コロナ禍のため2020年度～2022年度延期となった卒業期と、2023年度を合わせた4期合同開催となりました。獣医以外(独自開催のため)の卒業生66名・大学関係者(現教員・元教員等)16名を合わせた82名が出席し盛大に行われました。先ず記念集合写真を撮影し、加藤清雄校友会事務局長が開会を宣言、その後、野英二校友会会長のあいさつ、中原准一貴農同志会会長の食前の祈りと続き、水野直治名誉教授の乾杯の発声により食事、歓談となりました。普段から交流のある仲間と出席した方、久々の再会を果たした方もあつという間に距離を縮め、あちらこちらで名刺交換している姿も見られました。

また途中、別の同窓会に出席していた岩野英知学長が突然立ち寄られ、謝辞や大学改革等についてのスピーチをする場面がありました。そして、宴もたけなわとなり元学長の大谷俊昭氏から卒業生へエールをいただき、最後は締めとして酪農讃歌を合唱しお開きとなりました。



▲野英二校友会会長のあいさつ



▲食前の祈りをする中原准一貴農同志会会長



▲卒後20～40周年を迎えた同窓生と恩師(酪農学科卒・農業経済学科卒)



▲スピーチする岩野英知学長



▲大谷俊昭元学長のことば



▲水野直治名誉教授の音頭でカンパイ



▲加藤清雄校友会事務局長の発声により酪農讃歌を合唱



▲集合写真(2020年度～2023年度に10・20・30・40・50周年を迎えた同窓生と恩師)

# 獣医周年記念同期会 開催報告



**7/29** 43期10周年 場所：ホテルエミシア札幌  
幹事：西海賢治 権平智 酒井久美子

コロナで延期となっていた10周年同期会を執念で開催出来ました。会場のエアコンをフル稼働でも勝てない記録的な猛暑の中、各地からスケジュールを調整して41名が参加出来ました。夏休みという事もあり、お子様連れや家族旅行を兼ねた方もいらっしゃいました。1次会では来場できなかった方もZoomで参加できるよう準備をし、会場と会話を楽しんでいただきました。久しぶりの再会で話が尽きず、3次会まで盛り上がり、良い同窓会となったと思います。



**9/23** 34期20周年 場所：帝国ホテル  
幹事：西川晃豊 熊谷芳浩

昨年度が20周年でしたが、コロナ禍であったことから自粛せざるを得ませんでした。しかし、2023年5月に感染症法上の位置づけが5類になった辺りから同窓会開催への機運が高まり、開催にこぎつけることができました。卒業以来の同期生も再会してしまえば20年の時を感じることもなく思い出がよみがえり話は尽きず、会場を延長してもらって2次会へ。そして勢いのまま銀座の街へと繰り出したのでした。



**10/21** 13期40周年 場所：北広島クラッセホテル  
幹事：小林邦弘 虻川孝秀 谷田縁

コロナの影響で3年遅れの40周年となりました。参加者は同期49名と、中尾先生、加藤先生、菊池先生でした。会食前、亡くなられた同期12名へ黙とうを捧げ、一番遠くから来られた、原さんの乾杯により開始されました。懐かしい思い出や近況報告等、色々な話題で懇親会が進み1次会はあっという間で、ホテル内で3次会まで行い深夜まで楽しみました。翌日は道内観光やゴルフ等々々別れて行動し、皆さん無事に帰郷したようでした。

## Information

2024年度 周年記念を迎える卒業生	
酪農学科	50周年：11期（1974年卒）・40周年：21期（1984年卒） 30周年：31期（1994年卒）・20周年：41期（2004年卒） 10周年：51期（2014年卒）
農業経済学科	50周年：10期（1974年卒）・40周年：20期（1984年卒） 30周年：30期（1994年卒）・20周年：40期（2004年卒） 10周年：50期（2014年卒）
食品科学科	20周年：13期（2004年卒）・10周年：23期（2014年卒）
食品流通学科	10周年：17期（2014年卒）
地域環境学科	10周年：13期（2014年卒）
環境マネジメント学科	10周年：6期（2014年卒）
生命環境学科	10周年：6期（2014年卒）

## 周年記念同期会・ホーム

2023年度はコロナの影響で延期となった2020年度～2022年度までと2023年度を合わせた4期合同で開催しましたが、2024年度は通常開催となります。

周年同期会（獣医学科を除く）はホームカミングデーと同日の夜に開催予定ですが、ホームカミングデーは、2023年度から学園で主催しており、2024年度の開催は現在のところ7月頃（変更の可能性あり）の予定です。

新任のあいさつ

～酪農学園大学の更なる発展に向けて、  
地域にねざした選ばれる大学へ～



酪農学園大学 学長 **いわの ひでとも**  
**岩野 英知**

本年5月1日より学長となりました岩野英知です。私は1990年に本学獣医学科に入学し(27期)、獣医生化学で大学院までお世話になりました。獣医生化学の教員は、湯浅先生、横田先生でした。出身は鹿児島県鹿児島市です。酪農学園大学を、この先永続できるよう、真剣に、精一杯、盛り立てて行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

さて、酪農学園の現状ですが、大きく2点、問題があると考えています。

**1. 志願者の確保が困難な状況となり、学生納付金が減少**

- 少子化
- 農畜産業、食品産業に対する高校生の価値観の変化

**2. 大学組織運営の問題**

- 現場の教職員の意見が反映されにくい
- 大学設置基準、私学法の改正に対応すべき  
(ガバナンスの問題)

少子化の問題は、酪農学園大学の問題だけではなく、全国多くの大学が直面している状況ですが、各大学は将来に向けた様々な改革に着手しています。本学でも学類の再編を行うべく、現在活発な議論が進んでいます。特に文科省予算、大学・高専機能強化支援事業(<https://www.niad.ac.jp/josei/public-offering/>)の理工農系の学部、学科新設への補助事業については、次年度応募する予定で、2026年4月に新学類スタートを想定して議論を加速させています。

大学運営については、私学法改正、大学設置基準の見直しが行われており、それを踏まえて本学のガバナンスの在り方を十分に精査して寄附行為の改正に着手しております。特に、高島理事長の民間企業のご経験をベースとした考え方と、黒澤西蔵先生の教え、生き

方に強く心動かされた熱い思いにより、教職員は、日々、新しい気づきと変革に向けてのモチベーションが上がって来ております。具体的な改革点として以下5項目を考えています。

**1. 入学生の確保**

学生目線からの魅力のある大学、社会のニーズにあった学群(学類)の再編、協力体制の構築を実現し恒常的発展を目指す。

**2. 産業と連携した研究開発、特に新しい技術、概念を提唱できる基礎・応用研究の推進**

学内のシーズを積極的に産業と結びつける。また若い教員の新規研究の取り組みを後押しする。

**3. 10年以上先を見越した大学のあり方を議論し実現するための大学運営組織の構築**

教職員が大学運営にしっかりと参画できる仕組みを再構築し、本質的な議論ができる組織体制を目指す。

**4. 大学の各収支を精査して予算配分を適正化**

学納金、外部資金などの使途を精査し、『無駄』をなくす。

**5. 人事配置の適正化による教職員の負担軽減と雇用(給与面)の安定**

組織において良き人材の確保は最も重要であり、これが全ての土台となる。

先日、創立90周年の事業を終えました。次は100周年に向けて、改めて黒澤西蔵先生の思いを学び直しながら、酪農学園大学が躍進できるよう教職員一丸となり、改革を進めてまいります。私は、現在54歳ですので、100周年を見届ける立場にもあり、全て背負って頑張ります。どうぞ、皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力をよろしくお願い致します。

**カミングデー開催のお知らせ**

対象の卒業生へは日程等詳細が決まり次第、案内状を送付いたします。なお、住所不明となっている卒業生へはお届けできないため、校友会のホームページをご覧くださいませようご案内いたします。

▼校友会ホームページ

<https://kouyukai.rakuno.org>



**Information**

▼卒後50周年を迎える同窓生(酪農学科)



▲卒後10周年を迎える同窓生と恩師(生命環境学科)





5月19日（金）午後6時から、新さっぽろアーケスティホテルを会場に、2023年度の理事・代議員会が開催された。

理事・代議員他関係者16名が出席し、加藤清雄事務局長の司会で進行、野英二会長から開会挨拶が行われた。恒例により会長が議長で行われ、議事録署名人には浦川利幸理事、岡本吉弘代議員が選出された。

議事は第1号として（2022年度事業報告、収支決算、監査報告）、第2号として（2023年度事業計画と収支予算）、第3号として（代議員の追加選出案について）、それぞれ事務局から提案され、承認された。

コロナ禍による入学生の減少や退学者増から収支状況が悪化しており、予算削減や特別会計からの基金取り崩し案が提案され、承認された。

その他では会則の表記についての修正提案および酪

農学園同窓会への統合について協議した。最後に志田和仁副会長から閉会挨拶が行われ、終了となった。

総会終了後、7時半過ぎから4年振りに懇親会を開催し和気藹々とした中、徐々に懇親を深めた。

懇親会で乾杯のあいさつをする南 繁理事



物故者 2022年4月～2023年3月

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

流 博 (酪農・1期)	山谷 繁男 (酪農・1期)
篠原 功 (酪農・2期)	土合 紘造 (酪農・3期)
惣田 勝也 (酪農・6期)	廣澤 隆 (酪農・10期)
安東 和彦 (酪農・16期)	豊田 知紀 (酪農・26期)
田中 致 (酪農・27期)	山本 庸敏 (農経・7期)
高橋 誠一郎 (農経・11期)	五十嵐 啓 (農経・12期)
橋本 義光 (農経・15期)	五十嵐 雅弘 (農経・28期)
宮田 修二 (獣医・1期)	森崎 保明 (獣医・3期)
小松 保文 (獣医・4期)	鳥居 忠善 (獣医・6期)
深井 賢次 (獣医・6期)	渡邊 正信 (獣医・6期)
川向 修司 (獣医・9期)	錦戸 正己 (獣医・11期)
佐藤 詠子 (獣医・21期)	大島 克也 (獣医・22期)
岡田 康子 (獣医・26期)	江副 大輔 (獣医・38期)

敬称省略

会計報告

2022年度決算および2023年度予算について下記のとおり承認された

収入 (単位: 円)

項目	2023年度予算	2022年度決算	2022年度予算	備考
周年事業費	10,000,000			
同窓会費	23,580,000	22,710,000	22,770,000	30,000円×505名(獣医以外の学類・大学院含む) 60,000円×126名(獣医学類・大学院含む)
預金利息	1,116	1,116	1,500	
助成金	10,000	10,000	10,000	理事・代議員会開催(酪農学園同窓会より)
ホームカミングデー分担金	0	130,000	200,000	学園・短大・同窓会より
獣医同窓会費返還預り金	180,000	240,000	0	30,000円×8名
基金戻し入れ	0	1,000,000	0	同窓生会館施設管理費
雑収入	0	0	0	
当年度収入計	33,771,116	24,091,116	22,981,500	
前年度繰越金	1,191,731	5,837,571	5,837,571	
合計	34,962,847	29,928,687	28,819,071	

支出 (単位: 円)

項目	2023年度予算	2022年度決算	2022年度予算	備考
校友会事業費	12,430,000	11,238,294	13,400,000	
(入学式関係費)	1,300,000	1,593,870	1,700,000	パスケース、セット作業代等
(卒業式関係費)	6,200,000	6,661,853	6,400,000	学位記ホルダー、記念品等(卒業記念パーティーは中止)
(在学生関係費)	760,000	829,524	1,000,000	白樺祭、掲示板改修費用等
(同窓生関係費)	150,000	254,100	300,000	記念品製作費
(ホームカミングデー関係費)	20,000	155,946	300,000	謝礼金、交通費等
(会報関係費)	1,900,000	1,628,001	3,000,000	発送代、印刷代等
(周年記念同期会・退職記念祝賀会助成金)	2,100,000	115,000	700,000	助成金、発送代等
同窓会支部活動助成費	5,460,500	5,417,833	5,398,833	活動費、通信費等の助成
獣医同窓会活動費	3,904,500	3,591,000	3,591,000	28,500円×126名
代行徴収業務委託手数料	1,179,000	1,135,500	1,138,500	手数料5%(酪農学園)
同窓会費返還金	1,950,000	2,115,000	0	退学者 85名分(25,000円×84名 15,000円×1名)
獣医同窓会費返還金	180,000	440,000	0	退学者(55,000円×8名)
校友会運営費	3,780,200	3,799,329	4,000,200	
(会議費)	120,000	82,600	150,000	会場費等
(同窓会負担金)	640,200	640,200	640,200	各種手数料(住所管理等)
(人件費)	2,600,000	2,516,660	2,600,000	事務局長手当含む
(通信費)	60,000	59,928	60,000	電話料、郵送料等
(旅費交通費)	60,000	41,100	60,000	理事、代議員 他
(福利厚生費)	10,000	0	10,000	慶弔費等
(消耗品費)	200,000	373,131	400,000	事務用品、暖房器具等
(雑費)	90,000	85,710	80,000	振込手数料等
基金繰入金	0	1,000,000	1,000,000	同窓生会館施設管理費
雑支出	0	0	0	
当年度支出計	28,884,200	28,736,956	28,528,533	
次年度繰越金	6,078,647	1,191,731	290,538	

(単位: 円)

編集後記

1994年12月1日創刊の校友会会報は30回目の発行を迎えました。創刊当時の校友会会長(初代)は石田貞夫氏、事務局長は安藤巧一氏で、石田会長は継続性のある事業としてホームカミングデー等とともに会報の発行を挙げていました。そして今も受け継がれています。これからも大学と卒業生、在学生を繋ぐ会報誌をご愛読いただければ幸いです。(C.S.)



基金	金額
周年事業費	17,000,000
卒業記念事業費	54,460,000
同窓生会館施設管理費	3,000,000